

教科名	中学校 国語科	学 年	第1学年
単元名	物語の始まり——「竹取物語」——	生徒数	39名
		授業者	山田 優里
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 [知識及び技能] (3)ア 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 [思考力・判断力・表現力等] C(1)イ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 「学びに向かう力、人間性等」 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで「竹取物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 音読を通して文語のきまりや本文の内容に親しませることで、根拠をもった考えを形成できるようにする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ある課題について個人で考え意見をまとめ、友達と意見交流し、自分の考えを改めてまとめるという時間の確保を行い、自分の考えの変容を捉えることができるようにする。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容や調べて分かったことについてグループで交流し、考えを相手に伝えるための情報の精査を行う中で、自分の考えを再形成できるようにする。 			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 単元の最後に振り返りを行い、学びの自覚につなげるとともに、ほかの古文を読むときにも役立てられることを考えることで、この単元での学びとほかの単元とのつながりを意識できるようにする。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① 分かったことやできるようになったこと (学びの自覚)			
② 今後の学習で取り組みたいこと (学びの見通し)			
③ 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと (新たな学びの創造)			
⑤ 単元の学び (単元全体)			
⑥ 他の単元とのつながり (複数単元との関連付け)			
⑬ 友達の書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす (他者の振り返りを自分の学びに生かす)			

5 単元の指導と評価の計画（全6時間）			
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（○）（対話の視点）	振り返りの視点	評価の観点【】 評価規準
1	<p>◆「竹取物語」について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「竹取物語」について知っていることを挙げる。 ○ 「竹取物語」の作品の成り立ちや概要を知る。 ○ 昔話「かぐや姫」を動画で確認する。 ○ 言語活動について提示し、単元の見通しをもつ。 	① ②	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。（観察、ワークシート） <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで「竹取物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしようとしている。（観察）
2	<p>◆「竹取物語」の内容を捉えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書 p121 を参考に、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを確認する。 ○ 教科書 p114～115 を音読する。 ○ 現代語訳を参考に、現代と違う意味で使われている言葉（あやし、うつくし）について確認する。 ○ 昔話と比較して気付いたことをメモする。（比較する） 	① ③	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。（観察、ワークシート）
3	<p>◆「竹取物語」の内容を捉えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書 p115 を音読する。 ○ 意味が分からない言葉をタブレット端末で調べ、現代語訳を完成させる。 ○ 教科書 p116 「5人の求婚者と難題」についてグループで分担して調べ、分かった内容を共有する。 ○ 「なぜかぐや姫は求婚者に難題を提示したのか」という問いのもと、かぐや姫の思いや心情について考える。 ○ 昔話と比較して気付いたことをメモする。（比較する）・（広げてみる） 	① ③	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。（観察、ワークシート） <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。（ワークシート）
4	<p>◆「竹取物語」の内容を捉えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書 p118～119 を音読する。 ○ 意味が分からない言葉をタブレット端末で調べ、現代語訳を完成させる。 ○ 昔話にはないエピソードがあることに着目し、「なぜ帝はかぐや姫からの手紙と不死の薬を焼いたのか」という問いのもと、地上に残された人物の心情について考える。 ○ 昔話と比較して気付いたことをメモする。（比較する）・（広げてみる） 	① ③	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。（観察） <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。（ワークシート）
5	<p>◆昔話と比較して、「竹取物語」のおもしろさを見付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昔話と「竹取物語」を比較して見付けた共通点と相違点を挙げる。 ○ 「竹取物語」のおもしろさについてグループで発表するための資料（パワーポイント）を作成する。（評価する）・（要約する） 	① ③	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。（発表、資料） <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで「竹取物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしようとしている。（発表）
6	<p>◆昔話と比較して見つけた「竹取物語」のおもしろさを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に作成したパワーポイントを用いて「竹取物語」のおもしろさについて発表する。 ○ 振り返りを行い、ここまで学んだことと、古文を読むときに生かしたいことをワークシートに記録する。 	⑤ ⑥ ⑬	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。（ワークシート） <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで「竹取物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしようとしている。（ワークシート）